



第32期 中間事業報告書

2003年4月 1 日から
2003年9月30日まで



財務ハイライト

	9月30日に終了した6ヶ月間 単位：百万円（1株当たり金額を除く）	2003年9月中間期	2002年9月中間期
連結	売上高	31,695	31,675
	経常利益	1,148	940
	中間純利益	245	645
	1株当たり中間純利益（円）	9.68	25.28
	総資産	70,397	67,608
単独	売上高	15,018	14,382
	経常利益	796	592
	中間純利益	563	277
	1株当たり中間純利益（円）	22.24	10.87
	総資産	46,188	46,904

ローランド企業スローガン 創造の喜びを世界にひろめよう BIGGESTよりBESTになろう 共感を呼ぶ企業にしよう

ローランド独自の企業活動の根底にある精神は、上記3つのスローガンに集約されます。これこそ当社の企業としての意志であり、無限の可能性を秘めた音創りの明日に向かって、果てしなく広がる、大きな夢の源にほかなりません。これからのローランドにどうぞご期待ください。

目次

1 株主のみなさまへ	8 新製品のご紹介
2 営業の概況（連結）	10 トピックス
4 中間連結財務諸表（要旨）	12 会社の概況
6 中間単独財務諸表（要旨）	13 株式の状況
7 ブランドについて	

株主のみなさまへ

株主のみなさまには、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

当社第32期中間期（2003年4月1日から2003年9月30日まで）の事業の概要および中間決算につき、ご報告申し上げます。

当中間期の業績につきましては、北米において円高等により厳しい状況を余儀なくされましたが、欧州向け輸出が順調に推移し、また、コンピュータ周辺機器事業が国内外ともに順調に推移した結果、連結、単独決算ともに経常利益は増益、中間純利益は黒字転換を果たしました。

中間配当金につきましては、8円50銭（年間配当金は1株につき17円の予想）とさせて頂きます。

国内では引き続き個人消費が低迷すると予想されますが、世界経済全体はゆるやかな回復基調に移ると期待されます。この機会を逃すことなく、製品力と販売力の強化および業務改革によるコスト削減に努めることにより、通期目標の達成に取り組んでまいりますので、今後とも株主のみなさまのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2003年12月



取締役社長
檀 克義

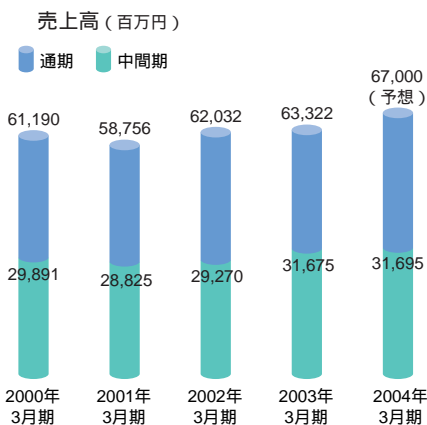
業績全体の概況

当中間期の経済環境は、堅調な個人消費をベースに回復基調を強めた米国に対して、国内においては、輸出、設備投資で回復の兆しがあったもののデフレ基調はかわらず、依然として厳しい状況で推移いたしました。

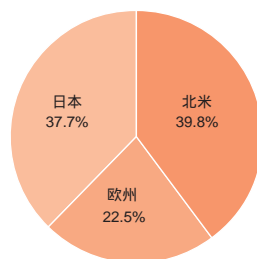
このような状況下において電子楽器事業の売上は、欧州ではユーロ高を受け好調に推移し、国内は概ね横這いでしたが、最大市場である北米においては、音響機器等の販売低迷に円高が重なり、厳しい状況を余儀なくされました。

一方、コンピュータ周辺機器事業は、屋外広告用途として溶剤系インクジェットプリンターの売上が伸び、水性顔料インクジェットプリンターが中国、韓国を中心に好調に推移しました。

上記の結果、前中間期と比較して売上高は横這いながら経常利益は増益、中間純利益は2億4千5百万円となりました。



所在地別売上高構成比



		(2000年3月期)		(2001年3月期)		(2002年3月期)		(2003年3月期)		(2004年3月期)	
		中間期	通期	中間期	通期	中間期	通期	中間期	通期	中間期	通期予想
連結	売上高 (百万円)	29,891	61,190	28,825	58,756	29,270	62,032	31,675	63,322	31,695	67,000
	経常利益 (百万円)	2,880	5,224	920	2,304	334	2,183	940	2,405	1,148	3,500
	当期純利益 (百万円)	1,699	3,381	282	808	146	300	645	1,189	245	1,300
	1株当たり当期純利益 (円)	67.02	132.81	11.06	31.61	5.74	11.73	25.28	47.63	9.68	51.28
単独	売上高 (百万円)	17,670	34,191	15,169	29,617	13,945	28,005	14,382	28,016	15,018	29,800
	経常利益 (百万円)	1,910	3,188	344	977	180	480	592	773	796	1,000
	当期純利益 (百万円)	1,333	2,301	364	1,053	485	471	277	158	563	700
	1株当たり当期純利益 (円)	52.58	90.39	14.25	41.19	18.98	18.43	10.87	6.21	22.24	27.61

セグメント別営業の概況

電子楽器事業

「電子楽器」は、シンセサイザーの新製品が価格競争の激化の中で、順調に売上を伸ばし、ダンス・ミュージック・クリエイター向け音楽制作機器、ギター用マルチ・エフェクター等が好調に推移したため、全体では前年同期を上回りました。

「家庭用電子楽器」は、電子ピアノが堅調に推移しました。日本においては、普及価格帯のシンプルな機種と大型液晶表示装置・多機能タイプが共に好調、海外ではグランド・タイプの高額機種が売上を支えました。国内では特に、携帯電話から赤外線ミュージック・データを受信できる電子ピアノを発売、新しい電子ピアノの楽しみかたを提供し注目をあつめました。しかしながら、欧州生産子会社で生産した製品の販売が厳しく、全体では前年同期を下回りました。

「音響機器」は、BOSS ブランドの入門者用デジタル・レコーダーが堅実な成績を収めたものの、販売単価が下がり、前年同期を下回りました。

「コンピュータ・ミュージック関連機器他」は、EDIROLブランドが海外市場に浸透、パソコン用オーディオ・デバイスが好調に推移しましたが、大型クラシックオルガン、音楽教室収入など、その他の売上が低迷し、全体では前年同期

を下回りました。

コンピュータ・ミュージック関連機器では、さらに、米国の大手コンピュータ・ミュージック・ソフトウェア会社であるCakewalk社に出資、提携を強化いたしました。商品開発と販売において相乗効果を図り、コンピュータ・ミュージック関連機器事業の発展に努めてまいります。

コンピュータ周辺機器事業

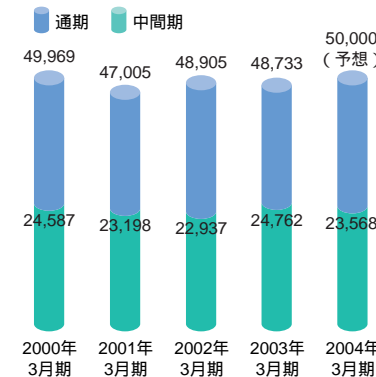
「カラー&3D」の二分野を中心として積極的な営業展開を図りました。

「カラー」は、屋外広告用途の需要増から屋外耐候性、発色性に優れ、また環境負荷を考慮した溶剤系インクジェットプリンターを投入する等、サイン市場に向けて最適な新製品の提供とソリューションの提案を行いました。

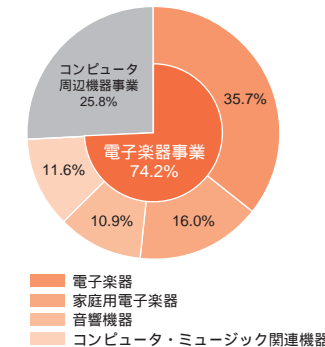
「3D」は、製造業においてものづくり工程のデジタル化が進む中、セミナーや展示会等を通じ、試作、部品加工および簡易金型作成等、積極的に用途提案を行い、需要の拡大に努めました。

地域別販売面では国内は厳しい状況を脱し、順調に売上を伸ばし、また海外は米国に加え韓国や中国等のアジアが好調で、大きく売上を伸ばすことが出来ました。

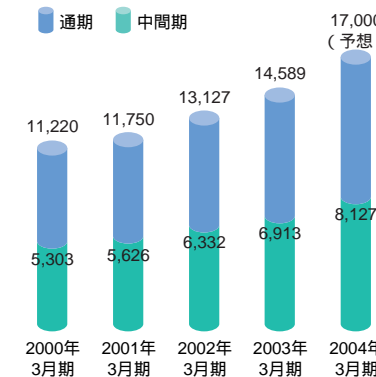
電子楽器事業売上高 (百万円)



事業のセグメント別売上高構成比



コンピュータ周辺機器事業売上高 (百万円)



中間連結財務諸表 要旨)

連結貸借対照表 (要旨)

科 目	(単位:百万円)			科 目	(単位:百万円)		
	当中間期 2003年9月30日現在	前中間期 2002年9月30日現在	前 期 2003年3月31日現在		当中間期 2003年9月30日現在	前中間期 2002年9月30日現在	前 期 2003年3月31日現在
(資産の部)				(負債の部)			
流動資産	43,729	41,741	42,707	流動負債	12,146	11,641	11,447
現金及び預金	18,342	18,934	18,845	支払手形及び買掛金	3,779	2,887	3,325
受取手形及び売掛金	9,028	7,912	8,426	短期借入金	3,556	3,980	2,880
たな卸資産	12,876	12,573	11,927	その他	4,810	4,773	5,241
その他	3,992	2,791	3,984	固定負債	1,081	771	1,020
貸倒引当金	510	470	476	負債合計	13,227	12,413	12,467
固定資産	26,668	25,866	24,675	(少数株主持分)			
有形固定資産	15,944	16,289	15,944	少数株主持分	8,549	6,630	7,066
建物及び構築物	7,927	8,296	8,106	(資本の部)			
工具器具備品	1,763	1,740	1,682	資本金	9,274	9,274	9,274
土地	5,414	5,398	5,403	資本剰余金	10,800	10,800	10,800
その他	839	854	751	利益剰余金	29,725	30,478	29,719
無形固定資産	1,153	1,237	1,012	土地再評価差額金	1,295	1,265	1,295
投資その他の資産	9,569	8,339	7,718	その他有価証券評価差額金	199	54	8
投資有価証券	3,121	3,735	3,063	為替換算調整勘定	167	662	406
その他	6,505	4,617	4,714	自己株式	251	114	251
貸倒引当金	57	13	60	資本合計	48,619	48,565	47,848
資産合計	70,397	67,608	67,383	負債、少数株主持分及び資本合計	70,397	67,608	67,383

連結損益計算書 (要旨)

科 目	(単位:百万円)		
	当中間期 (2003年4月1日から 2003年9月30日まで)	前中間期 (2002年4月1日から 2002年9月30日まで)	前 期 (2002年4月1日から 2003年3月31日まで)
売上高	31,695	31,675	63,322
売上原価・販売費及び一般管理費	30,677	30,809	61,222
営業利益	1,018	865	2,100
営業外収益	401	305	630
営業外費用	272	230	324
経常利益	1,148	940	2,405
特別利益	197	40	56
特別損失	74	177	1,700
税金等調整前中間(当期)純利益	1,271	802	762
法人税、住民税及び事業税	742	835	1,649
過年度法人税等		560	560
法人税等調整額	22	141	794
少数株主利益	306	194	536
中間純利益又は中間(当期)減損失()	245	645	1,189

連結決算の範囲

連結子会社	(当中間期) (前中間期) (前期)			
	国内	6社	7社	7社
	海外	15社	14社	14社
持分法適用関係会社	海外	3社	4社	4社

連結剰余金計算書 (要旨)

科 目	(単位:百万円)		
	当中間期 (2003年4月1日から 2003年9月30日まで)	前中間期 (2002年4月1日から 2002年9月30日まで)	前 期 (2002年4月1日から 2003年3月31日まで)
(資本剰余金の部)			
資本剰余金期首残高	10,800	10,800	10,800
資本剰余金増加高	0		
自己株式処分差益	0		
資本剰余金中間期末(期末)残高	10,800	10,800	10,800
(利益剰余金の部)			
利益剰余金期首残高	29,719	31,403	31,403
利益剰余金増加高	245		
中間純利益	245		
利益剰余金減少高	239	924	1,684
中間(当期)純損失		645	1,189
配当金	215	255	472
役員賞与	23	23	23
利益剰余金中間期末(期末)残高	29,725	30,478	29,719

連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

科 目	(単位:百万円)		
	当中間期 (2003年4月1日から 2003年9月30日まで)	前中間期 (2002年4月1日から 2002年9月30日まで)	前 期 (2002年4月1日から 2003年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	729	2,577	4,415
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,686	1,671	2,116
財務活動によるキャッシュ・フロー	225	878	2,515
現金及び現金同等物に係る換算差額	228	238	84
現金及び現金同等物の減少額	503	211	300
現金及び現金同等物の期首残高	18,845	19,145	19,145
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	18,341	18,934	18,845

中間単独財務諸表 要旨)

貸借対照表 (要旨)

科 目	(単位:百万円)		
	当中間期 2003年9月30日現在	前中間期 2002年9月30日現在	前 期 2003年3月31日現在
(資産の部)			
流動資産	17,359	18,265	18,678
現金及び預金	8,428	10,160	9,217
受取手形及び売掛金	4,052	3,561	4,074
たな卸資産	2,607	2,728	2,399
その他	2,284	1,826	3,002
貸倒引当金	14	13	14
固定資産	28,828	28,638	27,397
有形固定資産	9,891	10,173	9,963
建物	4,584	4,816	4,706
工具器具備品	757	709	670
土地	4,136	4,136	4,136
その他	414	511	450
無形固定資産	412	388	384
投資その他の資産	18,524	18,076	17,050
投資有価証券	11,946	12,659	11,684
長期貸付金	1,488	1,506	1,512
その他	5,602	3,997	4,270
投資評価引当金		79	
貸倒引当金	512	6	416
資産合計	46,188	46,904	46,076

損益計算書 (要旨)

科 目	(単位:百万円)		
	当中間期 (2003年4月1日から 2003年9月30日まで)	前中間期 (2002年4月1日から 2002年9月30日まで)	前 期 (2002年4月1日から 2003年3月31日まで)
売上高	15,018	14,382	28,016
売上原価・販売費及び一般管理費	14,578	14,306	28,021
営業利益又は損失()	439	76	5
営業外収益	492	556	801
営業外費用	135	41	23
経常利益	796	592	773
特別利益	747	1	1,971
特別損失	790	142	3,026
税引前中間純利益又は当期純損失()	753	451	281
法人税、住民税及び事業税	210	194	127
過年度法人税等		560	560
法人税等調整額	20	25	810
中間純利益又は中間(当期)純損失()	563	277	158
前期繰越利益	36	320	320
中間配当額			216
中間未処分利益又は当期未処理損失()	599	42	54

(単位:百万円)

科 目	(単位:百万円)		
	当中間期 2003年9月30日現在	前中間期 2002年9月30日現在	前 期 2003年3月31日現在
(負債の部)			
流動負債	4,760	5,764	5,203
買掛金	1,523	1,426	1,602
短期借入金	1,502	2,500	1,500
その他	1,735	1,837	2,100
固定負債	225	164	205
負債合計	4,986	5,928	5,409
(資本の部)			
資本金	9,274	9,274	9,274
資本剰余金	10,800	10,800	10,800
利益剰余金	22,477	22,226	22,129
利益準備金	847	847	847
任意積立金	21,030	21,336	21,336
中間未処分利益又は当期未処理損失()	599	42	54
土地再評価差額金	1,295	1,265	1,295
その他有価証券評価差額金	196	54	9
自己株式	251	114	251
資本合計	41,202	40,975	40,667
負債及び資本合計	46,188	46,904	46,076

ブランドについて

自由な発想とスピリッツから、感動を生む「音」を創造する電子楽器の総合ブランド。



高品位の音質を実現する独自のテクノロジーから、画期的な新製品を次々と打ち出し、世界の音楽シーンをリードする『ローランド』。世界のプロミュージシャンから高い信頼性と評価を得、ステージやスタジオで活躍しているシンセサイザーや電子ドラム、アンプをはじめ、ご家庭でも楽しめるデジタルピアノや電子オルガン、業務用のアンプやスピーカーなど音響機器、そして携帯電話着信音サービスなど様々な商品を通じて「感動」をお届けしています。

エフェクター世界No.1のシェアを誇る、ギター関連機器ブランド。



エフェクター、デジタル・レコーダー、リズム・マシンなどのギター関連機器から、プロの創造力を刺激する「音」をお届けしている『ボス』。世界中の有名ギター・プレイヤーや楽器ファンから信頼のブランドとして厚い支持を受け、コンパクト・エフェクター世界No.1のシェアを誇っています。

自由に創りだす喜びをお届けする、音と映像の編集機器ブランド。



コンピュータ・ミュージック、ビデオ編集機器を中心に展開する『エディロール』。高品位なサウンドの音楽制作や音と映像編集を、多彩な製品ラインナップでサポートしています。

伝統の技と先進技術が融合した、クラシック・オルガンのブランド。

最新のデジタル技術によって、豊かなパイプオルガン・サウンド、ハーモニー、大聖堂さながらの響きを再現した、本格クラシック・オルガンのブランド『ロジャース』。全国のホテルや世界各国の教会、音楽ホールなどで採用されています。



次代のソリューションを提案する、コンピュータ周辺機器ブランド。



デジタル技術の力で「イメージをカタチに」するブランド『ローランド ディー・ジー』。業務用大型カラープリンターや三次元入出力装置などから、さまざまなソリューション提案を行っています。

ORGAN

上位機種に匹敵する高機能を搭載した
ローランド・オルガンのエントリー・モデル
ミュージック・アトリエ AT-15

ローランド・オルガン「ミュージック・アトリエ」シリーズは、エントリー・モデル「AT-10S」をはじめ、「AT-20S」「AT-60S」「AT-80S」「AT-90S」の最上級モデルまでの5機種をラインナップ。伝統あるオルガン・サウンドを忠実に受け継ぎ、さらにデジタルならではの新しい機能をふんだんに備えた電子オルガンとして、オルガン愛好家の方々より高い評価をいただいております。また、全国各地のローランドRMS音楽教室では、「ミュージック・アトリエ」の特長を活かしたさまざまなコースを用意し、子どもから大人までオルガン演奏の楽しみを広げています。「AT-15」は、ローランドならではの高品位なサウンドはもちろん、表現力豊かな演奏をかなえる広い音域の61鍵下鍵盤、和音も奏でられる20鍵足鍵盤、あらかじめ登録した音色やリズムなどのパネル設定を瞬時に呼び出せる8つのレジストレーション・ボタン、人の声まで表情豊かに表現するヒューマン・ボイスの音色など、上位機種に匹敵する「ミュージック・アトリエ」ならではの演奏表現の可能性を広げるさまざまな高機能を搭載しながら、



高いコスト・パフォーマンスを実現したエントリー・モデルです。また、教育現場での使用に配慮し、従来製品同様、貴重な財産となる演奏データの互換性を重視し、異なる機種間でも同じ操作感覚で扱うことができます。オルガン演奏の素晴らしさを一人でも多くの方にとの願いが生んだ「AT-15」は、オルガンをより身近にする、魅力あふれる電子オルガンです。

PIANO

携帯電話から演奏データを転送できる業界初の
赤外線データ通信機能付きデジタルピアノ
ローランドピアノ・デジタル KR-7iR

音の高低や強弱といった演奏情報をフロッピーディスクなどに収録してデジタルピアノなどの電子楽器で再生、レッスンやカラオケなどに活用できる「ミュージックデータ」。このミュージックデータを手軽に入手いただく手段として、株式会社NTTドコモ関西様のご協力のもと、携帯電話の赤外線通信機能を活用するアプリケーションを開発いたしました。業界初の赤外線データ通信機能付きデジタルピアノ「KR-7iR」では、携帯電話の赤外線通信機能を活用し、携帯電話でダウンロードしたミュージックデータを瞬時に「KR-7iR」本体へ転送することができます。また、専用データをダウンロードできるローランドの携帯電話着メロサイトの新サービス「iかなでル」には、開設時からすでに7,000曲ものラインナップをご用意。ハードウ



ェアとコンテンツ両面の充実により、ますます広がりを見せる携帯電話ユーザーにデジタルピアノという新しいエンターテインメント・ツールを提案いたします。ローランドでは、今後もこの赤外線データ通信機能を搭載したデジタルピアノのラインナップを拡充し、電子楽器の可能性をさらに広げてまいります。

DIGITAL RECORDER

パソコンとも連携できる軽快なフットワークの
ギター向け小型8トラック・デジタル・レコーダー
8トラック・デジタル・スタジオ BR-864

「BR-864」は、ギターやベース、マイクなどをダイレクトに接続して音楽作りからレコーディング、ミキシングまで、一貫した直感的な操作で音楽作りができるギタリストのためのデジタル・レコーダーBRシリーズのニュー・モデルです。すでに多くのギタリストに認められたBRシリーズのさまざまな機能や優れた操作性を受け継いだ「BR-864」は、多彩な音作りが行える強力なエフェクト、長時間録音可能なコンパクトフラッシュ、素早くオリジナルのリズム・プログラムができるリズム・ガイド、パソコンと簡単接続できるUSB端子などを装備し、電池駆動が可能な簡単操作で誰もが使えるコンパクトな8トラック・デジタル・レコーダーです。



SYNTHESIZER

シンプルな操作で作曲りやライブ・パフォーマンスができる
シンセサイザー2機種

シンセサイザー・キーボード RS-70、RS-50

「RS-70」と「RS-50」は、普及価格モデルでありながら、シンプルな操作で作曲りやライブ・パフォーマンスを可能にするシンセサイザー・キーボードです。音色ボタンで楽器音を選択して、思い付いたフレーズを重ねて録音していくだけで、すぐに作曲りができる新コンセプトの「クイック・シーケンサー」を搭載。近年のポップスやダンス・ミュージックで聞かれるループ（繰り返し）・フレーズを中心とした楽曲も簡単に作成できます。また、内蔵のフレーズや和音を簡単に鳴らすことができるサポート機能、プロ向けシンセサイザーから移植した音色を含むCDクオリティの最新の音色で、アマチュアの方でも本格的な作曲りやライブ・パフォーマンスを楽しんでいただけるシンセサイザー・キーボードです。



DTMP

Hi-Speed USB (USB2.0) 対応オーディオ・インターフェース
USBオーディオ・キャプチャー UA-1000

「エディロール」の新製品「UA-1000」は、Hi-Speed USB (USB2.0) に世界で初めて対応した（注1）オーディオ・インターフェースです。USB1.1帯域幅の最高約40倍以上に相当する（最大480Mbps）高速なデータ転送を提供するUSB2.0のサポートにより、24bit/96kHz使用時でも独立10チャンネルの同時録音再生を実現。しかも内部演算は40ビットでプロセッシングする徹底したプロ・クオリティ設計により、高品位でゆとりのある音楽制作環境を実現できます。合計10チャンネルの入力をはじめ、充実した入出力端子を装備し様々なレコーディング環境に適応します。



（注1）ローランド調べ。2003年3月現在

COMBO KEYBOARD

完璧なオルガンと、ピアノと、シンセサイザーを
一台で制する76鍵コンボ・キーボード

V-Combo VR-760

「V-Combo VR-760」は、オルガン・プレーヤーの絶大な支持を獲得しているバーチャル・トーンホイール・オルガン、アコースティックはもちろ往年のエレクトロニック・ピアノの名器たちのサウンドも克明なピアノ、さらに大容量ウェーブと自由度の高い音色拡張が可能な高品位シンセサイザー、この3つの楽器を完璧なクオリティとともにスマートなデザインに凝縮した76鍵キーボードです。サウンド・クオリティはもちろんのこと、実践的な機能と優れた操作性を備え、ライブ・パフォーマンスのために生まれたコンボ・キーボードです。



AMPLIFIER

さらに進化したローランドのキーボード・アンプ
KCシリーズハイ・パワー・モデル

4チャンネル・ステレオ・ミキシング・キーボード・アンプ
KC-550、KC-350

KC-550とKC-350は、シンセサイザーをはじめとする電子楽器はもちろん、CDやMD、マイクなど、多彩な入力に対応し、フラットな周波数特性で最高のサウンドを出力するKCシリーズのハイ・パワー・モデルです。KC-550は15インチ（38cm）、KC-350は12インチ（30cm）スピーカーとホーン・ツイーターによる2ウェイ方式を採用。クオリティの高いモニター・サウンドが得られる180W（KC-550）、120W（KC-350）の大出力で、さらびやかなデジタル・サウンドから、繊細なアコースティックサウンド、重厚な低域と、バランスよく再生できるハイ・パワー・キーボード・アンプです。



DTMP

人気のデジタル・マルチトラック・レコーディング・システムの最新・最高峰モデル

ソナー・パーフェクト・ソリューション SI-24モデル

「エディロール」ブランドの新製品「ソナー・パーフェクト・ソリューションSI-24モデル」は、人気のデジタル・マルチトラック・レコーディング・システム「ソナー・パーフェクト・ソリューション」の最新・最高峰モデルです。先進のMIDI & オーディオ統合環境を実現するソナーの最新版Ver.2.2を収録し、多彩な編集機能で効率よく音楽制作を進めることができるコンピュータ・ミュージック制作ツールです。



記載されている社名、製品名などの固有名称は、各社の登録商標または商標です。


ローランドの環境への取り組み

美しい地球環境を守るため、環境保全活動を継続的に推進し、世界の人々が音楽を楽しめる環境作りに取り組むことを使命として、「環境宣言」を制定いたしました。

化学物質管理の体系化
 これまでの環境基準の遵守に加え、化学物質管理の体系化に取り組み、法令で規制する化学物質の他、当社独自に廃止すべき化学物質を決め、当社および協力企業においてそれら化学物質の全廃を目指します。

「環境報告書2003」の発行とともに、ホームページ (http://www.roland.co.jp/fs/ir_env.html) に環境への取り組みについてのページを開設いたしました。

美しい地球との調和を目指して



環境宣言

人類が姿を現す前から、
この世界は様々な音に満ちていました。

風の囁き、海の叫び、大地の鼓動、
人間は其中で、歌い、楽器を作り、
音楽と共に生きてきました。

音楽産業に携わること、
それは地球とのかかわりあいを
無視しては成り立ちません。

これからも我々の子孫が豊かな環境の中で生活し、
音楽を楽しんでいけるよう、
ローランドは不断の努力を続けていきます。



本社機能の移転集約

ローランド株式会社は、2003年8月18日に本社を大阪市北区堂島浜より大阪市北区曽根崎新地へ移転いたしました。また、同時に、事業効率化のための諸施策の実施の一環として、管理部門の業務効率化を図るため、財務部をはじめとする管理部門の大半の機能を主力工場である細江工場（静岡県引佐郡細江町）へ移転、集約いたしました。

中国に物流会社設立

「ローランド上海貿易（英語名：Roland Shanghai Logistics Co., Ltd.）」が2003年4月1日に営業を開始いたしました。中国内外に向けたローランドの物流を管理・運営し、さらなる中国市場におけるローランドの電子楽器等の販売・物流網強化と拡大を目指してまいります。



ビデオ編集レッスン事業を展開

個人指導のビデオ編集レッスン事業を展開している「ビデオ・ラボ・ネットワーク株式会社（静岡県浜松市、2002年6月1日設立）」が、2003年4月19日より東京にもオープン。また、2003年4月26日に「ビデオ・ラボ・ネットワーク大阪株式会社」が営業を開始いたしました。

ローランドグループが培ってきたビデオ編集愛好家の市場とデジタルビデオ編集機「DV-7」ユーザーを継承し、ホームユーザー向けにビデオ編集のレッスンを行い、ビデオ編集の楽しさを広めてまいります。



打楽器教育における電子打楽器活用セミナー開催

2003年8月25日、東京で財団法人ローランド芸術文化振興財団主催、ローランド株式会社協賛による「打楽器教育における電子打楽器活用セミナー」を開催いたしました。吹奏楽やマーチングバンドの打楽器練習をはじめ、音感・リズム感育成における電子打楽器の効果的な活用法を提案し、打楽器教育の新たな可能性を紹介。楽しく、しかも効率よく上達できる、電子楽器ならではの機能を積極的に活用されている講師陣が講演、事例発表を行い、教育現場の先生方約150名にご来場いただき、盛況なセミナーとなりました。今後も電子楽器の有効活用法を教育現場に訴求してまいります。



ローランド・オルガンフレンドリー・コンサート2003開催

“おしゃべりするみたいに、オルガンを楽しもう”をキャッチフレーズに、「ローランド・オルガンフレンドリー・コンサート2003」を2003年7月9日鹿児島を皮切りに2003年9月まで全国7箇所で開催いたしました。全国に展開しているローランドRMS音楽教室の頂点ともいべきオルガンの祭典「RMSオルガン・ミュージックフェスティバル全国大会」第12回の受賞者、そしてプロのオルガニストや講師の方々を招き、オルガン音楽の楽しさを身近に感じていただいたコンサートになりました。



会社の概況

会社の概要（2003年9月30日現在）

商号	ローランド株式会社（Roland Corporation）
設立	1972年4月18日
資本金	9,274百万円
主な事業内容	電子楽器、電子機器およびそのソフトウェアの製造販売並びに輸出入
従業員数	713名

役員状況（2003年9月30日現在）

取締役社長（代表取締役）	檀 克 義
専務取締役（代表取締役）	新 田 寛
専務取締役	菊 本 忠 男
常務取締役	西 澤 一 朗
取締役	三 木 純 一
取締役	近 藤 公 孝
取締役	田 中 英 一
常勤監査役	古 河 拓
常勤監査役	庄 司 東 生
監査役	川 島 実
特別顧問	梯 郁 太 郎（創業者）
会計監査人	監査法人トーマツ

（注）監査役 古河 拓氏および川島 実氏は、株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律第18条第1項に定める社外監査役です。

事業所

本社	大阪市北区曾根崎新地1-4-20 電話 06-6345-9800
工場	細江工場、都田工場、伊左地工場、松本工場
研究所	浜松研究所
試験センター	都田試験センター
流通センター	浜松流通センター
営業所	札幌営業所、仙台営業所、東京営業所、名古屋営業所、大阪営業所、広島営業所、福岡営業所
音楽教室	北海道センター、首都圏センター渋谷、東海センター佐鳴台、東海センター、関西センター京都、関西センター梅田、広島センター、福岡センター
海外事業所	ロッテルダム事務所

グループ各社（国内）

製造	ボス株式会社
製造	ローランド イーディー株式会社
製造販売	ローランド テック株式会社
製造販売	ローランド アイ・ピー株式会社
販売	エディロール株式会社
販売	ローランド エス・エス株式会社
販売	ビデオ・ラボ・ネットワーク株式会社
製造販売	ローランド ディー・ジー・株式会社

グループ各社（海外）

販売	Roland Corporation U.S. Edirol Corporation North America Roland Canada Music Ltd. Roland Brasil Ltda. Roland Corporation Australia Pty. Ltd. Roland (U.K.) Ltd. Edirol Europe Ltd. Roland Elektronische Musikinstrumente HmbH. Roland France SA Roland Austria GmbH Electronic Musical Instruments Roland Scandinavia A/S Roland Benelux N.V. Roland (Switzerland) AG Roland Italy S.p.A. Roland Electronics de Espana, S.A. Tecnologias Música e Audio, Roland Portugal S.A. Roland East Europe Ltd. Roland Taiwan Enterprise Co., Ltd.
製造	Rodgers Instruments LLC Roland Audio Development Corp. Roland Taiwan Electronic Music Corp. Roland Electronics Suzhou Co., Ltd. Roland Europe S.p.A.
物流	Roland (Shanghai) Logistics Co., Ltd.

株式の状況

株式の状況（2003年9月30日現在）

会社が発行する株式の総数	50,000,000株
発行済株式総数	25,572,404株
自己株式数	219,387株
株主数	5,204名

大株主（2003年9月30日現在）

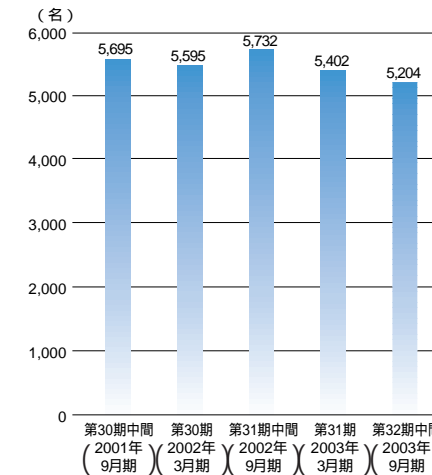
株主名	持株数 (千株)	議決権比率 (%)
梯 郁太郎	3,084	12.2
ノーザントラストカンパニー(エイブイエフシー)サブアカウント アメリカンクワイアット(常任代理人 香港上海銀行東京支店)	2,630	10.4
パイオニア興産株式会社	1,800	7.1
財団法人ローランド芸術文化振興財団	1,585	6.3
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	956	3.8
株式会社りそな銀行	802	3.2
ローランド社員持株会	712	2.8
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	642	2.5
パイオニア株式会社	519	2.1
ローランド共栄会	256	1.0

単元未満株式買増制度のご案内

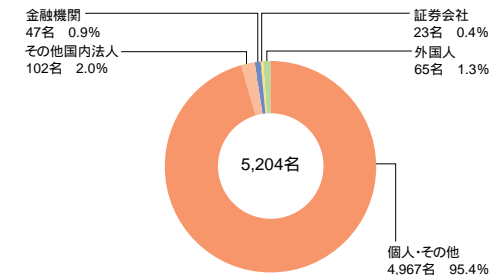
当社は単元未満株式の買増制度を採用しております。この制度は、株主様が1単元（100株）に満たない株式を所有されている場合、1単元に不足する株式を売り渡すよう発行会社に請求し、1単元に買増することができる制度です。例えば、当社株式150株を所有されている場合、当社に50株の買増しをご請求いただき、所有株式を200株にすることができます。具体的なご請求手続きや代金の支払方法などにつきましては、当社名義書換代理人（株式会社だいこう証券ビジネス）にお問い合わせください。

なお、単元未満株式の買取請求につきましても、引き続きお手続きいただけますので、買取りをご希望される場合は、当社名義書換代理人までお問い合わせください。

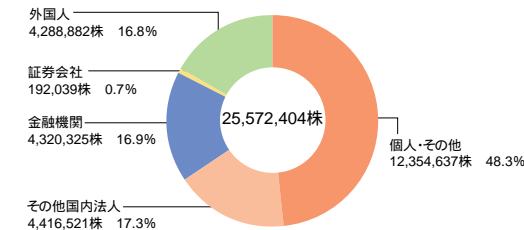
株主数の推移



所有者別株主分布状況（2003年9月30日現在）



所有者別株式分布状況（2003年9月30日現在）



株主メモ

決 算 期	3月31日
定時株主総会	6月
1単元の株式数	100株
基 準 日	定時株主総会 3月31日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。
配 当 金 受 領 株 主 確 定 日	利益配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
上場証券取引所 名義書換代理人	東京・大阪証券取引所市場第一部 大阪市中央区北浜二丁目4番6号 株式会社だいこう証券ビジネス
同事務取扱場所	〒541-8583 大阪市中央区北浜二丁目4番6号 株式会社だいこう証券ビジネス 本社証券代行部
(各種お問い合わせ)	電話 0120-255-100 株式関係のお手続用紙のご請求は次の電話番号および インターネットで24時間承っております。 電話 0120-351-465 http://www.daiko-sb.co.jp
同 取 次 所	株式会社だいこう証券ビジネス 各支社

配当金口座振込のおすすめ

配当金のお受取りは、口座振込が便利です。口座振込の場合は、支払開始日に自動的にご指定口座へ入金させていただきますので、受取り忘れといったこともなくなり安心です。口座振込による配当金のお受取りをご希望の場合は、当社名義書換代理人（株式会社だいこう証券ビジネス）に「配当金振込指定書」をご請求ください。

(注) 日本経済新聞に掲載する決算公告に代えて貸借対照表および損益計算書の開示は当社ホームページ（<http://www.roland.co.jp/ir/index.html>）に掲載しております。



<http://www.roland.co.jp/>